

# 令和2年度医療に関する 市民アンケート調査の結果

吹田市保健所 保健医療室

令和3年（2021年）3月

- 1 調査の概要
- 2 主な調査結果
  - (1) 医療機関の役割分担について
  - (2) かかりつけ医について
  - (3) 在宅医療について
- 3 まとめ

# 1 調査の概要

- 調査対象 吹田市に在住する20歳以上の男女
- 配付数 3,000人
- 抽出方法 無作為抽出
- 調査方法 郵送配付・郵送回収
- 回収数 1,852人
- 回収率 61.7%
- 調査期間 令和2年（2020年）11月5日  
～令和2年（2020年）11月23日

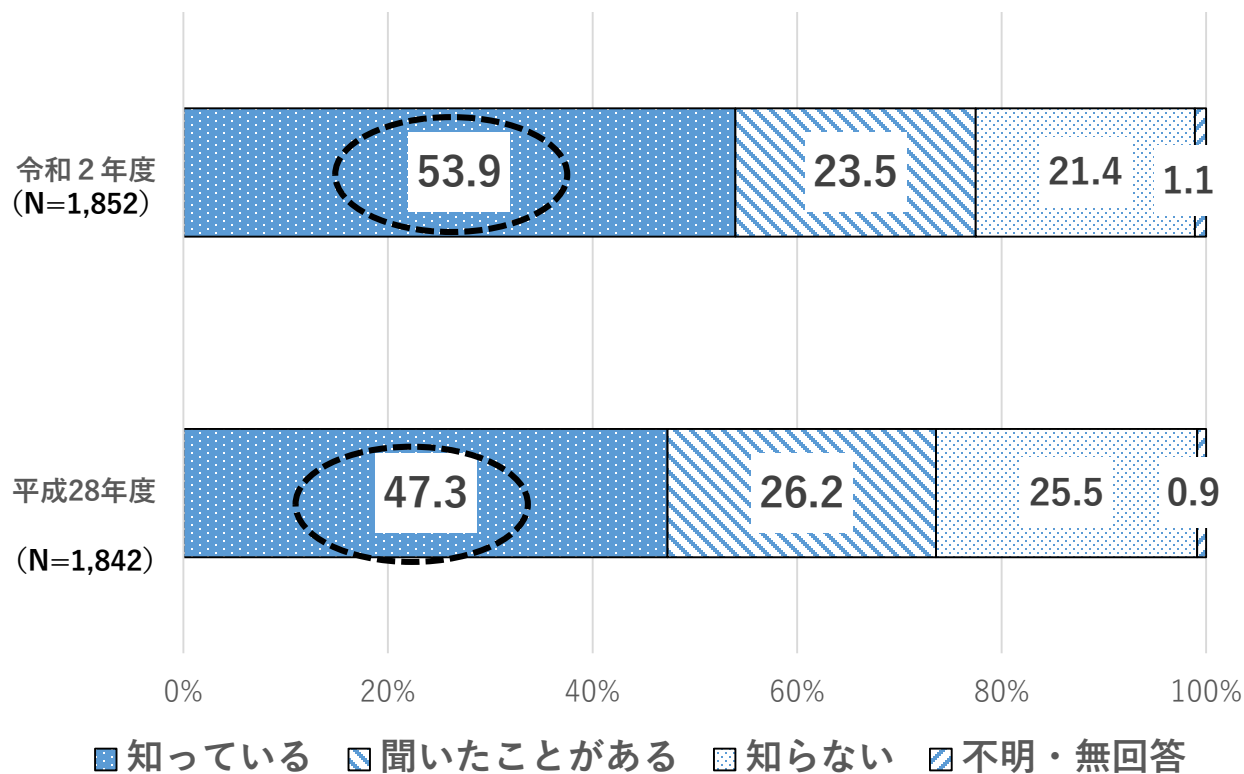
※ 回答結果の割合（％）は小数点以下第2位で四捨五入しており  
合計値が100.0%にならない場合があります。

## 2 (1) 医療機関の役割分担について①

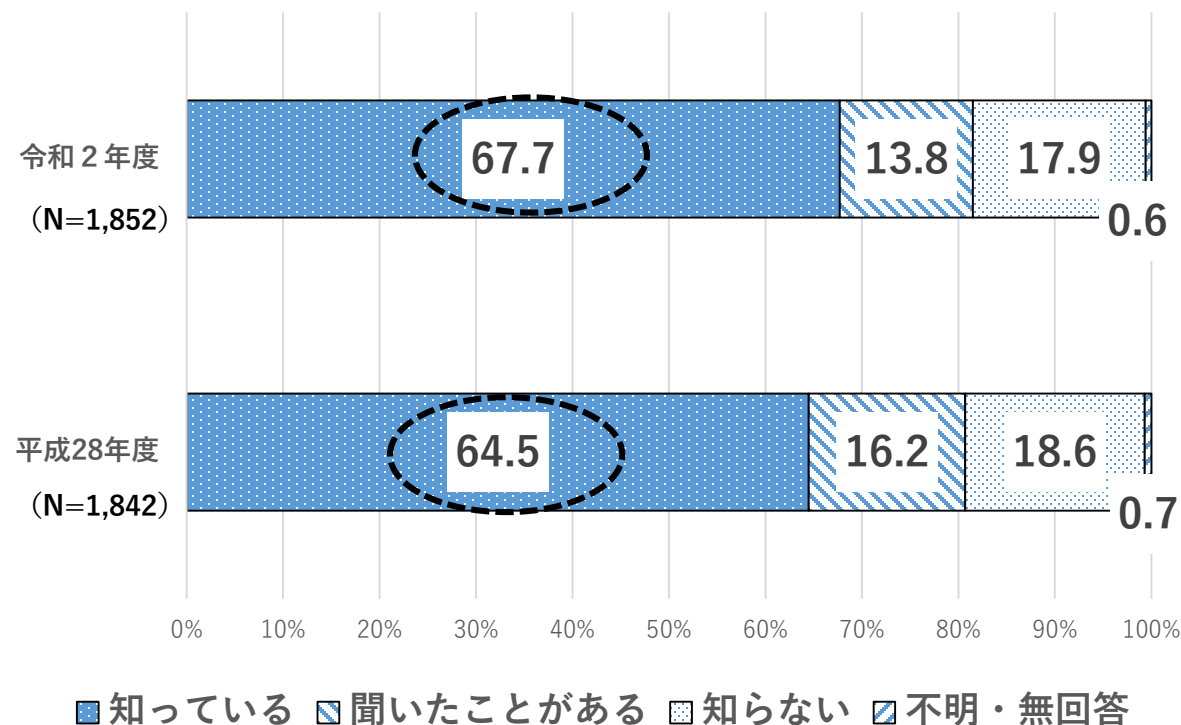
○医療機関には役割があることを知っている人の割合は半数以上（53.9%）であり、平成28年度に比較して6.6%増加している。

○初診時選定療養費については7割弱（67.7%）が知っていて、平成28年度に比較して3.2%増加している。

### 医療機関の役割についての認知度



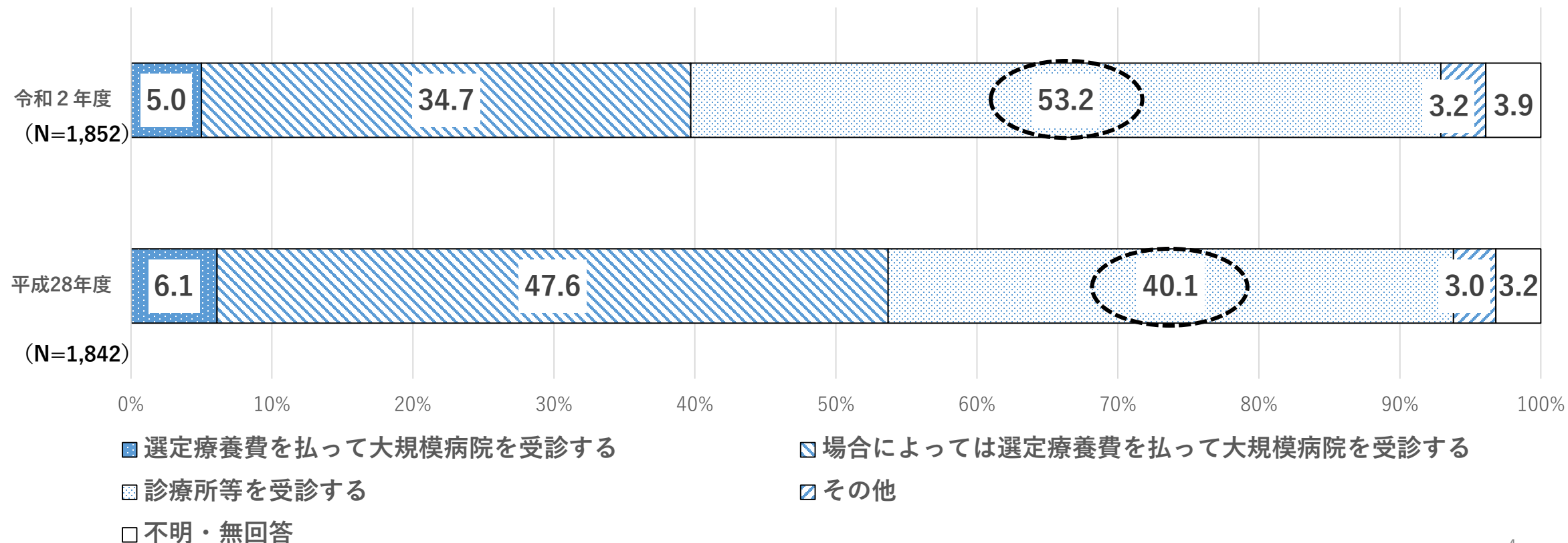
### 紹介状なしで大規模病院を受診した場合、初診時選定療養費が必要であることの認知度



## 2 (1) 医療機関の役割分担について②

○初診時選定療養費の仕組みを踏まえた場合、半数以上（53.2%）の人は病気になった時に診療所等を受診すると答えており、平成28年に比較して13.1%増加している。

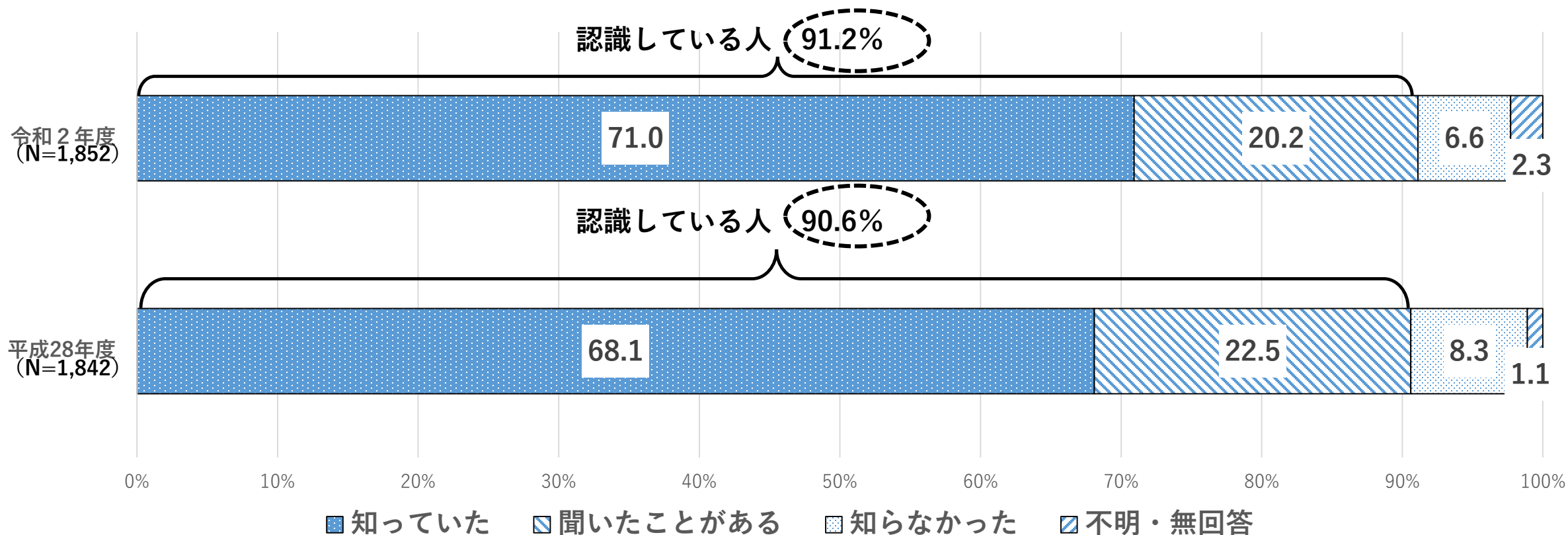
### 初診時選定療養費と受診行動



## 2 (2) かかりつけ医について①

○かかりつけ医について「知っている人」は7割（71.0%）で、「聞いたことがある」を合わせると9割以上（91.2%）の人に認知されている。平成28年度に比較して大きな増加はみられない。

### かかりつけ医の認知度

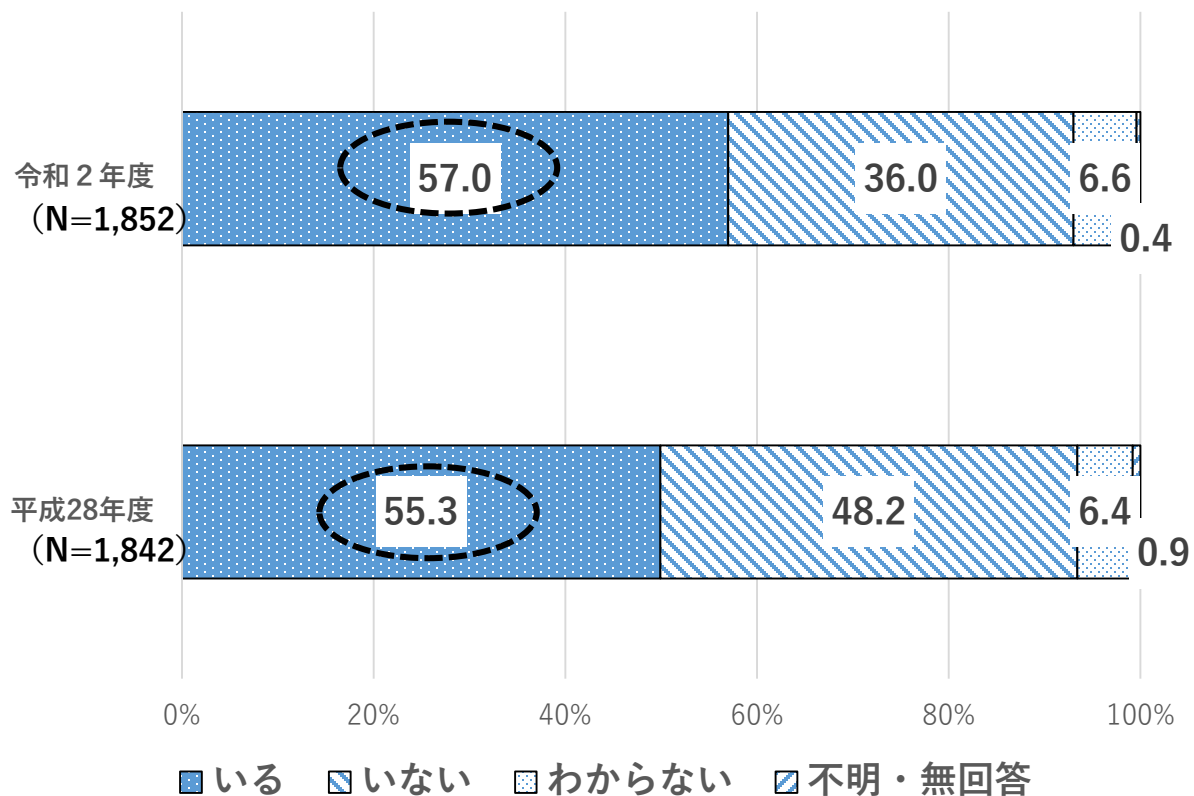


## 2 (2) かかりつけ医について②

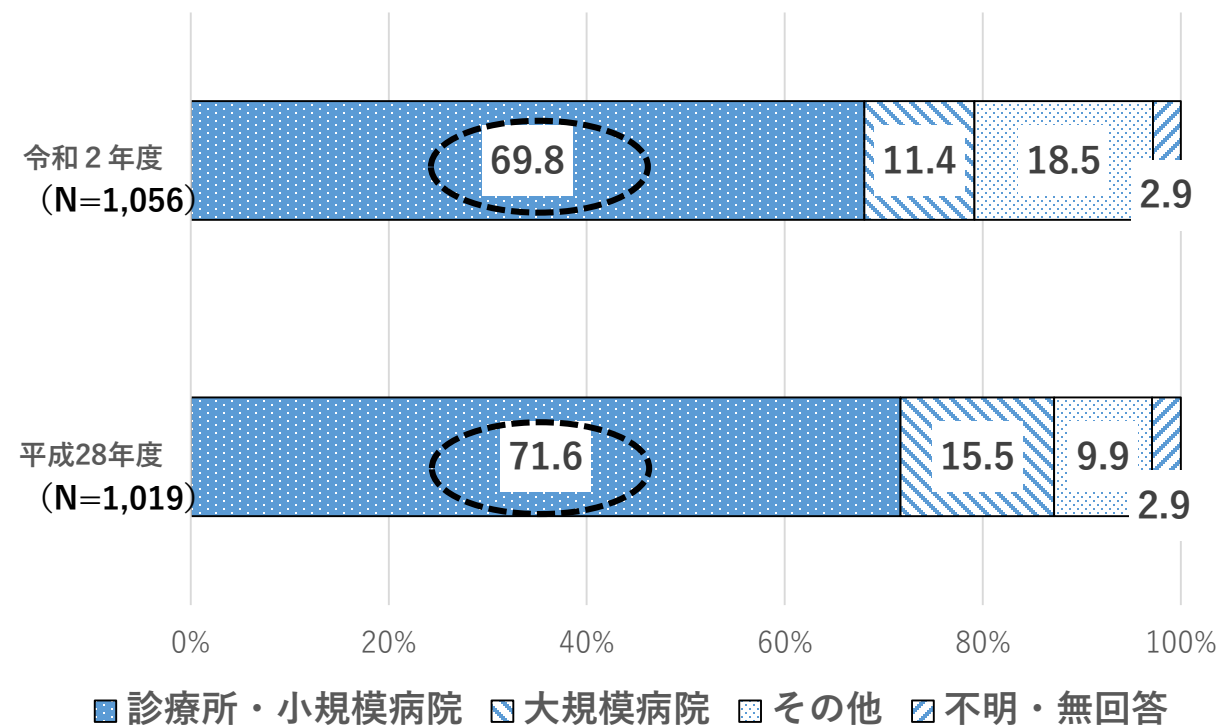
○実際にかかりつけ医がいる人は6割弱（57.0%）であり、平成28年度に比較し1.7%増加。

○かかりつけ医のいる人の7割（69.8%）は診療所・比較的小さな病院にかかりつけ医を持っている。

### かかりつけ医の有無



### かかりつけ医「いる」と回答した方の かかりつけ医の所属する医療機関（複数回答）

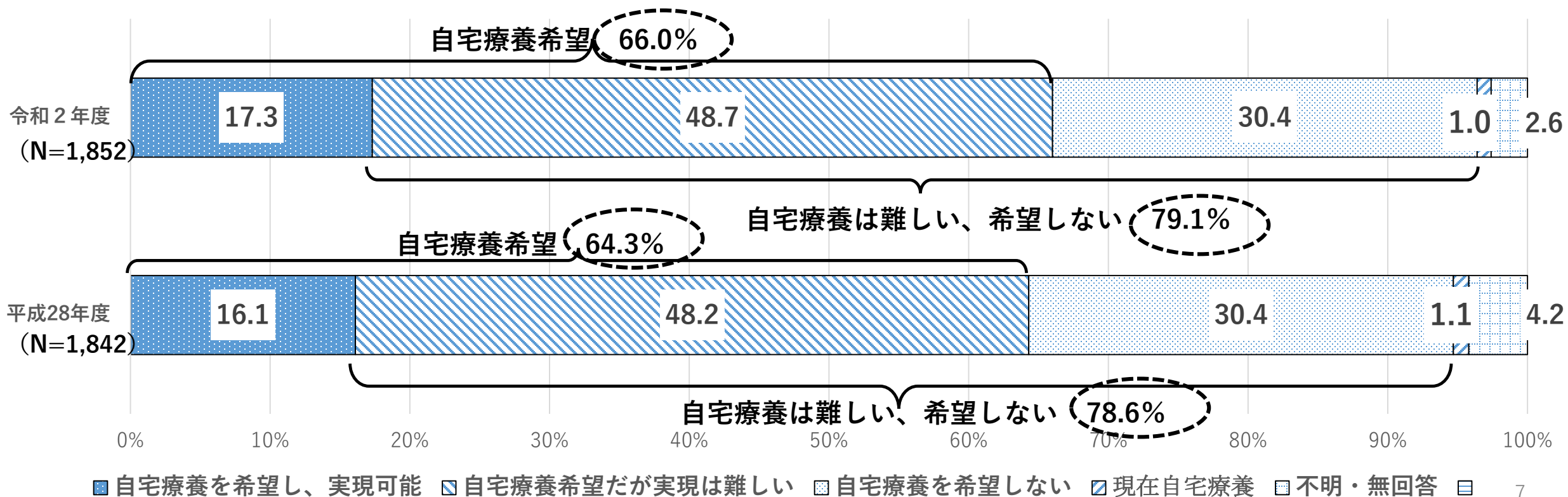


## 2 (3) 在宅医療について①

○自宅での療養を希望する人は6割台（66.0%）であり、平成28年度に比較して1.7%増加している。しかし、希望していても実現が難しい、自宅療養は希望しないと考える人は8割弱（79.1%）であり、傾向は大きくは変わらない。

○自宅療養が困難・希望しない理由としては、「家族がいるが、負担をかけたくない」「療養のための環境が整っていない」「経済的な負担がどれほどになるかわからず、不安があるため」が多く、平成28年度とその傾向は変わらない。

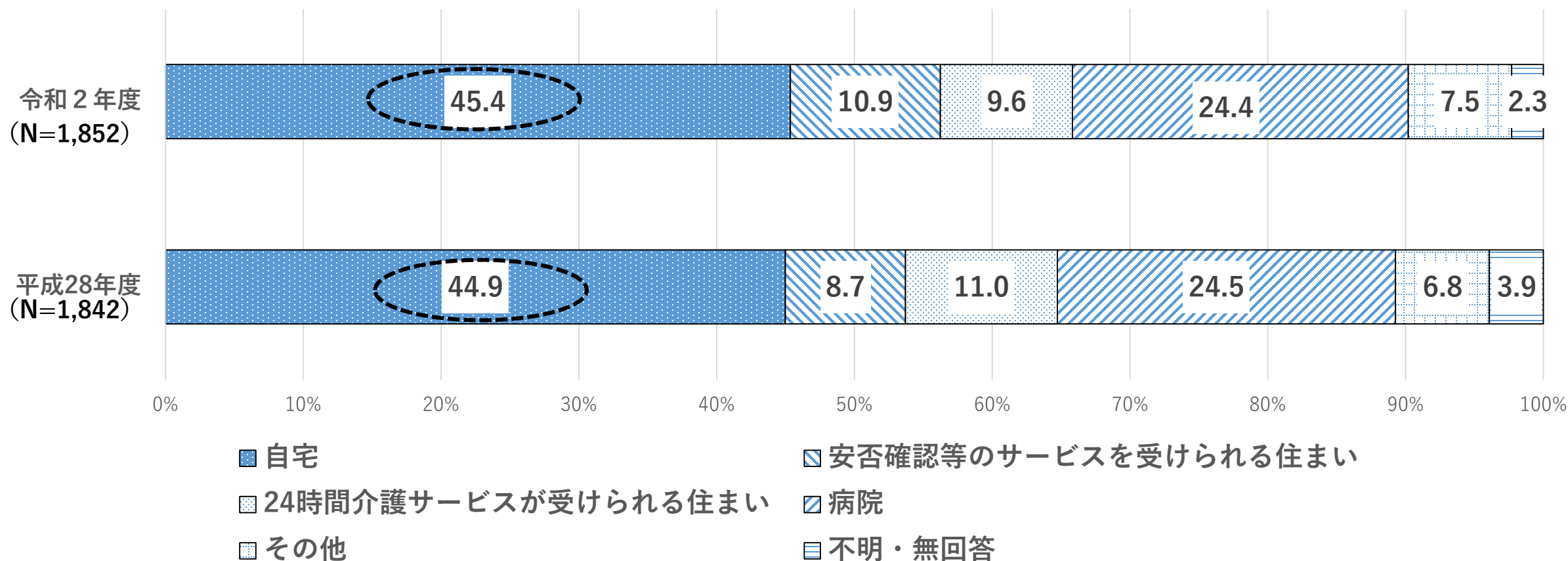
### 自宅療養の希望と実現の可能性



## 2 (3) 在宅医療について②

○人生の最期を迎えたい場所は、自宅が約4割（45.4%）と最も高く、平成28年度と比較して傾向に変化なし。

### 人生の最期はどこで迎えたいか



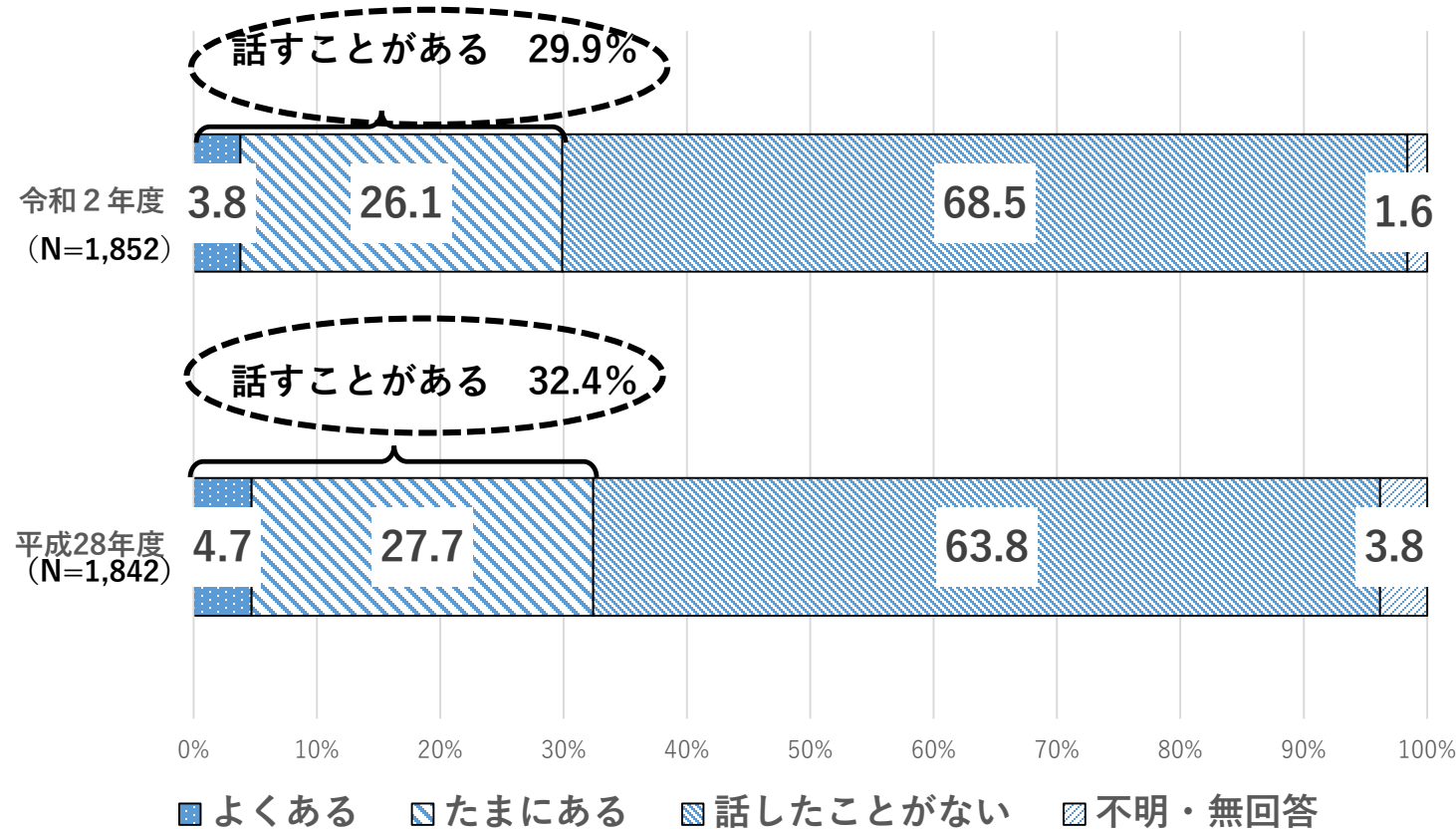


## 2 (3) 在宅医療について③

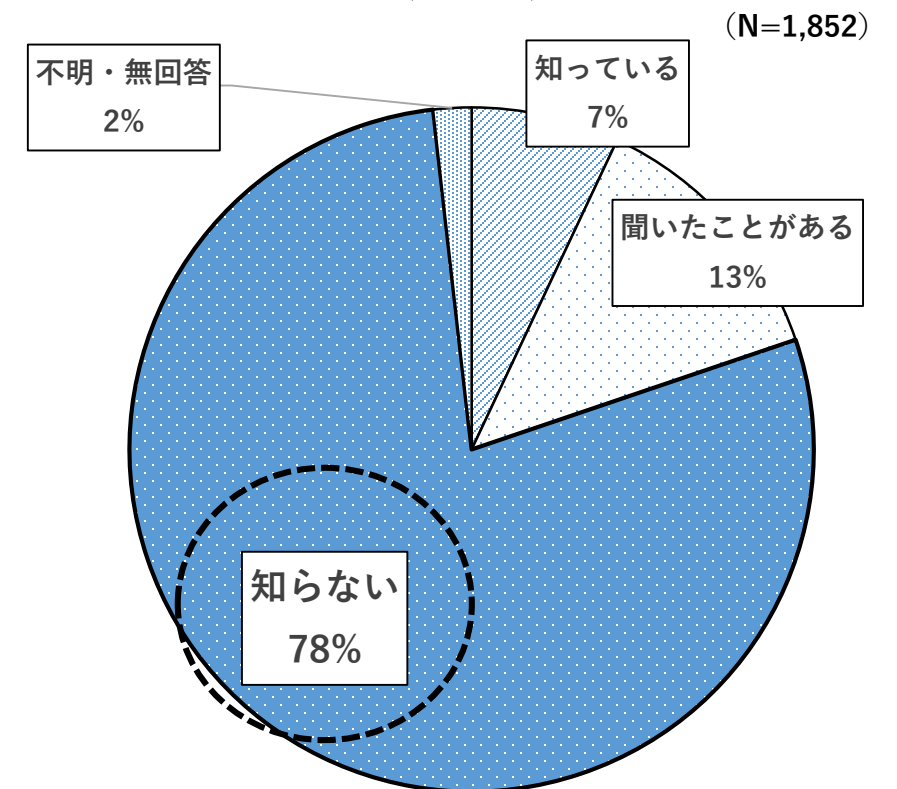
○人生の最期について家族と会話することがある人は3割（29.9%）であり、平成28年度に比較し、2.5%減少している。

○人生会議（ACPアドバンス・ケア・プランニング）という取り組みを知らない人は78%。

### 人生の最期について家族と会話するか



### 人生会議（ACP）の認知度



# 3 まとめ

## 医療機関の役割分担について

限られた医療資源の中で、役割分担と連携は必要。市民が安心して必要な医療を受けることができるよう、医療機関の役割分担の必要性や医療のかかり方などについて、市民に対する丁寧な情報提供を行う必要がある。

## かかりつけ医等について

医療機関に係る機会が少ない若年層など、年齢や対象ごとに様々な機会をとらえた啓発を行うことが効果的であると考えられる。また、インターネットやSNSなど情報発信の方法について工夫を要する。さらに、かかりつけ医に安心して受診・相談できるように、さらなる医療の連携促進の取り組みも必要である。

## 在宅医療について

自宅で療養したいと思う「希望」と自宅で療養が実現するかという「実現の可能性」には大きな差がある。在宅での介護支援体制や病院との連携体制、コストなど在宅療養の具体的なイメージが持てるよう丁寧な情報提供が必要。また、「人生会議」の認知度はまだまだ低く、その大切さなどについて、自分事として考えることができるよう、分かりやすく情報提供していくことが重要。